

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX049-272-7092 ホームページ <https://hatoyama.info/>

6月・7月の活動予定

■「本気で学ぼう『里山』って何？」ZOOM学習会



「トトロの森」は「里山」の本当の姿を伝えていない?!

講師 星（富田）昇氏

里山を未来に生かすために
ZOOM学習会●里山に入る前に知っておくべきこと

6月11日（火）午後2時～4時
かわせみハウス
参加費 無料

主催 NPO法人はとやま環境フォーラム/熊井の森トラスト基金 ☎049-227-3001

6月14日（火）午後2時より4時までかわせみハウスでZOOM学習会を行います。テーマは「里山に入る前に知っておくべきこと」です。講師は星（富田）昇氏。東京生まれで埼玉浦和育ち。東京農大卒、現在は、福島県天栄町で一般社団法人湯本森・里研究所を主宰。自然環境を「調べ」「守り」「活かす」活動を通じて持続可能な地域づくりに貢献する活動を続けておられます。先日、星氏の講演「獣をさばく2022 vol.4「里山今昔一里山を未来に活かすために」」をYoutubeで事前聴講し、質問項目を星氏に送り、その質問に答えていただく形の勉強会です。目指すべき里山とは何か、アンダーユースとオーバーユースの問題など、実践的な知識が得られるだろうと期待されます。一般の方もぜひお越しください。参加費無料。

■「アンズジャムづくり&アンズ畑見学」体験



**アンズジャム作り
アンズ畑見学
体験**

6.16（日）9:30-13:00

開催した時の撮影した写真はハットヤマ環境フォーラムのホームページに掲載予定です。
当日、アンズ畑の見学や、収穫したアンズを使ったジャム作り体験を行います。収穫したアンズを使ったジャム作り体験を行います。収穫したアンズを使ったジャム作り体験を行います。

会場 鳩山町立鳩山小学校 農事課
〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町 鳩山小学校 農事課

参加費 1,500円（小学生以上）

主催 NPO法人はとやま環境フォーラム
☎049-227-3001 / 049-227-4011（受付）
kawasemi3001@gmail.com

6月16日開催の『アンズジャムづくり体験』に向けて、企画内容の研究や、参加者申し込みの呼びかけ、当日と同じ進行手順で進める試作会の計画など、初めて行う企画に向けて、なんどもミーティングを重ね準備をしています。

5月末現在の参加申し込み状況は、目標15名に対して、10名の申し込みがあり、女性7名。そして、最初から男性の参加があると良いなあと考えていましたが、なんと3名も参加されます。その中には、ご夫婦で参加が1組。なかなか意味深い企画になりそうだと、期待感も増してきます。

楽しそうな当日を迎えられそうですが、もう少し参加者を増やしたいと思います。お菓子作りが好きな方やお友だちに声をかけていただきたいです。（嵯峨）

■みんなでのんびり熊井の森歩き第1回スタート

7月9日（火）、別の企画が入ってきて延び延びになっていた「熊井の森観察会」をはじめます。かわせみハウス前に午後1時半集合。車に相乗りして熊井の森へ。ひとりで山に入るのちょっと不安と躊躇していた人にも熊井の森を安全に堪能できる機会を定期的に設けようという企画です。3時過ぎにはNTに戻ってきます。お知り合いの方をお誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。

6月・7月 活動スケジュール

- | | | |
|----|--------------|---------------|
| 6月 | 2日（日）午前8時半～ | 資源回収 |
| | 11日（火）午前9時半～ | 6月定例会理事会&例会 |
| | 午後2時～ | 里山ZOOM学習会 |
| | 12日（水）午前9時～ | ハト麦作業日 |
| | 16日（日）午前9時半～ | アンズジャムづくり |
| | 29日（土）午後7時半～ | ホテル観察会 |
| | | 「熊井の森通信」31号発行 |
| | 30日（日）午前8時半～ | 第2回写真学校 |
| 7月 | 7日（日）午前8時半～ | 資源回収 |
| | 9日（火）午前9時半～ | 7月定例会理事会&例会 |
| | 午後1時半～ | 定例観察会 |
| | 30日（火） | 「熊井の森通信」32号発行 |

5月の活動報告

■協生農法の試験作付けがスタート



今年1月から検討を続けてきた“協生農法”による農園が稼働し始めました。場所は上熊井のちよくま（上熊井農産物直売所）の横、徒歩3分くらい。200坪ほどの空き地を地主さんから正式に使用許可をいただくことができたのです。

協生農法は不耕起が基本ですが、最初だけは草を刈り、耕します。そうしないと、すでに勢力を持って生えている様々な雑草に、播いた種が対抗できないので、対等な条件にしてやろうということです。いっぺんにすべては出来ないで、まず10坪くらいの土地を耕し、畝を作ってカボチャやキュウリなどの苗を植えました。（残念、

その苗はすべて虫にやられて全滅しました。数日後に植えたネギの苗は元気に育っています。）

種を播いた面積はまだ10坪くらいです。20数種類の種を、2本の畝と耕しただけの畑に、混在させて播きました。協生農法では、密集・多種混栽が基本なのです。これから

100種類くらいの種を播き、ほかに、コスモスや百日草、ツクサ、紫蘇などの苗を植えました。きれいな花に癒されながら作業をしたいので。

農業経験の無いメンバーで、初めて取り組む協生農法です。周りにこの農法について経験のある方はいません。すべてが実験です。失敗を恐れず取り組んで行こうと思います。（井田）



▲5月22日に協生農法試験地に播いた種（23種）

■共同農園で水くみ路づくり



5月11日（土）、6人で竹藪払い作業。畑の畝に水やりするために、小川の縁までの通路づくりです。竹の切り株の始末が大変でしたが、これで一安心。あとは

刈った竹の枝を払って秋のハト麦の天日干し用のハザカケづくりが待っています。

■第18回エコフェスタ比企を開催

5月25日（土）、かわせみハウス前の緑道で開催。出店者は環境フォーラムと住民自治会、コパンの会のほか、初参加



ではランドセルの増田さん、手作りパンの浅野さんなど8店舗。運営スタッフには11人。朝は風が強くて心配でし

たが、開始時間には風は収まり、気温も暑いぐらいに上がり、小学校の運動会があった割には、ますますの人出でした。今回のためにレジャーテントを1基購入。古本の売り上げは余り期待出来ないで次回は別の方法を。



■ハト麦苗400本植え付け完了

5月26日（日）、空は晴れたり曇ったり、ちょっと暑い日でしたが、朝9時過ぎから2時間ほど、5人で植え付けました。5月18日に、畝の長さ10m位で、畝幅60cm、通路100cmに紐を張っておいたので、それに添って、株間を40cm空けて植えました。苗は20cmほどに育った、自分たちで育てたものです。やはり苗づくりは難しいですね。今年は雨が適当に降って、元気に育って欲しいものです。（嵯峨）

2023年度総会報告

2023年度総会が、2024年（令和6年）5月21日、当法人事務所（かわせみハウス）で開催されました。

第1号議案 令和5年度事業報告書・収支決算報告書付議の件、第2号議案 令和6年度事業計画書・収支予算書付議の件、第3号議案 役員の1人（佐藤暎子氏）死去につき理事改選の件について審議のうえ、満場一致をもって議案は承認されました。そして、第4号議案 その他では「各事業担当責任者は担当業務の業務報告及び会計報告をすみやかにし、業務の円滑な運用に努めること」を申し合わせました。

2024年度の理事は、愛場謙嗣（代表理事）、下川敬明、鈴木勝行、愛場結偉、加藤博（監事）。2024年度の活動計画の要旨は以下の通りです。2023年度の活動概要は「熊井の森通信」で報告の通りですので割愛します。

A 保全活動

- ・トラスト地の取得活動は行わない。有償賃貸契約は2024年7月で期限切れとなるが、山林の管理（生き物調査や下草刈りを順次実施）などの継続活用を申し入れる。

- ・トラスト地の保全管理 トラスト1・2号地の稜線草刈り、階段を延長、斜面の灌木処理、井戸のあるあたりの竹の伐採。トラスト3号地のモミの木から先へのルート延長作業。トラスト4号地では野鳥保護のため、作業は行わない。トラスト5・6号地でのピオトープ工事（作業通路づくり）の実施の可否を判断。トラスト7号地での作業内容は検討。

- ・樹木植生調査を実施。入山数調査を実施。
- ・生きもの観察会を毎月定例開催。熊井の森ガイドの基礎知識の研修学習の場とする。熊井の森の生き物調査を兼ねる。里山とは何かの専門家を交えた学習会。

B 活用活動

- ・熊井の森写真学校 今年度からは自主運営、泉井体験交流館と提携。

- ・ピザ窯利用 会員親睦で年2回はピザパーティーを開催
- ・味覚体験として栗拾い、はと麦収穫、柿もぎ、芋ほり、タケノコ採り、あんずジャムづくり体験。

C 広報活動

- ・熊井の森通信発行 毎月1日に発行。HP運用・SNS発信 HP、ブログ、インスタ、facebook メディアチーム発足、HPのレイアウト変更。

- ・写真学校作品展 自主運営グループが泉井体験交流館で開催予定。はとやま祭・文化祭への参加。

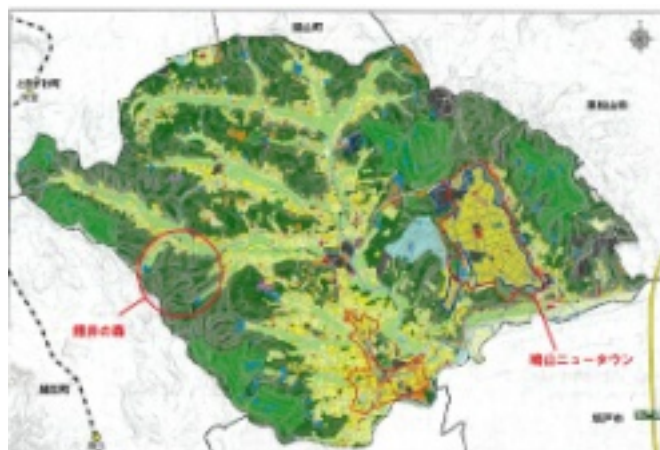
D 一般活動

- ・資源回収 毎月第1日曜日 回収協力は約30戸。
- ・まちづくり懇談会 地域おこし協力隊の映画上映。
- ・調査研究活動として、農薬分析採水、協生農法の実験栽培、自然共生サイトの学習講演会、里山学習会。
- ・ホテル観察会を6月に実施。
- ・エコフェスタ比企 5月、11月の2回開催。

はとやま環境フォーラム

活動の基本方針

「熊井の森の自然保護」と「自然の恵みの活用」



1. 活動の出発点

「熊井の森」がいわゆる「里山」という概念に当てはまるかどうかは検証を要するが、すくなくとも、今我々が関わっている「熊井の森」の生態系の現況調査を重ねながら、それに基づく「熊井の森の自然保護」を行うのが活動の出発点である。

2. 活動の目的

自然保護（生物多様性の維持・促進）のための「保全」活動と、自然の恵み（生態系サービス）の恩恵の再認識・学習のための「活用」活動を行うこと。

3. 活動の場所

第1次的には我々が所有（賃貸を含む）する「トラスト地」である。第2次的には熊井の森全体が対象だが、熊井の森全体の将来目標は未定である。

4. 活動の進め方

当該年度計画・3か年計画・5か年計画と複数年計画を立て、「ゾーニング」の作成合意を待たずとも、すでに活動を始めているエリアでの活動は順次進めていく。

5. 「活用」と「活性化」の区別

自然の恵みを「活用」した各種活動と、地域コミュニティの「活性化」（にぎわい＝地元の人が元気になる、外から若い世代が訪れ、生計手段を生み出すこと）とは区別する。その上でつながりを考える。

6. 活動の担い手

持続可能な保全活動のためには担い手の確保が必須である。自然観察会やエコツアーイベントなど“様々な入口”を通して、担い手を増やす努力をする。

▲2023年度に4回開催のワークショップで議論

- ・かわせみハウス運営委員会の運営参加。
- ・荒川流域ネット主催のアユ釣りイベント協力。
- ・理事会 毎月第2火曜日開催、理事とチーフ会員参加。
- ・総会 2025年5月開催。

ニノハオ 熊井の森歳時記

「長虫果」って何？

初夏の頃、畦道や道路端、林の草むらに、小さな黄色いお花が終ったあとに、赤い実があちこちに顔を出して、まるで赤瑪瑙（あかめのう）が緑の絨毯にちりばめたとように目立つんです。

もうお分かりでしょう。そう、「蛇莓」です。蛇莓は漢名ですが、中国の故郷においては「長虫果」とも呼ばれています。その名前のせいか、「長虫」（蛇のこと）にずっと恐怖心を抱いてた私にとっては怖いイメージの草でした。清少納言『枕草子』にも「名おそろしきもの…くちなはいちご、鬼わらび」の一文があります。「くちなは」も蛇の古語だそうです。可愛い姿なのに、名前ですげているみたい、なんと可哀想な植物でしょう。



▲ヘビイチゴ

でも、子どもだった私はその真赤な誘惑にとうとう負けてしまい、ある日ときどきしながら食べてみたのですが、水っぽくて薄い青臭い味で、食用には不向きであることがよくわかりました。以来、二度と採ったことがないんです。だけど、蛇莓もなんと漢方薬の一つで、清熱解毒、止血、止痛などの効能があるそうです。最近の研究によると抗がん性も有するが分かったようです。

やはりイメージ先行は禁物。それに、自然界のあらゆる植物がなにかの人間に役立つような効能を知ると、ますます植物に興味湧いてきますね。（王菲）

熊井の森トラスト基金への支援を

★1口5,000円から

- <振替口座> ■ゆうちょ銀行
記号番号 00210-4-143207
加入者名 熊井の森トラスト基金
- <普通口座> ■ゆうちょ銀行 支店 ○三八
口座番号 9472664
口座名義 クマインモリトラストキキ
(熊井の森トラスト基金)

★年会費3,000円支援の場合

- ゆうちょ銀行 店名 ○三八 店番038 普通預金
口座番号 96656981
口座名義 トリハヤカサキヨウ

森の中へ

～ 自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り④ ～

「自然を守れ」のスキームはどこに



(前号からの続き)

「勘違いしてはいけないことは、人間の活動や景観の見た目や感触の利便性から発想してどんな活動をするかが決められるべきではないのです。それには楽しくないこともあると思います、たと

▲クサフジ

えば森の生態系にとっての脅威となるアライグマ駆除など。自然の保全は人の「見たいこと、したいこと」だけでは済まないことがたくさんあります。

翻って、本来の里山は、かつて山と里が人の生活のインフラに組み込まれていた自然環境のありようでしたが、この時代にあった生態系では独特の生態系が維持されていました。里の稲作水路が自然の水路や自然石を使ったものだったので、豊かな生物多様性が維持されていました。しかし、いまでは失われた生物種がたくさんあり、この独特の環境は、現在のU字溝で喪失しました。また、近年苗植え時などに撒かれる除草剤の影響があり、多くの人からいつも指摘されているこれら農法の問題があります。かつての水路周辺にたくさんの生き物種がありましたが、もう失われて久しいのです。

現在の地元の人にはすっかり忘れられた昔の里山に観光客を呼び寄せて実現するものとして、地域創生・活性化の副次作用があると考えられるかもしれませんが、それが生態系にとってどんな価値があるのかを見極めましょう。

熊井の森は、しばしば薄気味悪いといわれますが、それほど深い原生の森の印象を特徴として、この環境を生きる場所として選んでいる生き物を守りませんか。（HK）



▲マルバウツギ 5月石場沼辺で満開でした。卵の花の匂う垣根に、卵月はこの花ですね。クサフジも盛りでした。